

6. 地域活性化（もっともっと知って仁淀）

生徒：題名は「もっともっと知って仁淀」です。まず、僕たちは仁淀の祭りを紹介したいと思います。仁淀には有名な秋葉祭りがありますが、長者地区で行われる祭りを紹介したいと思います。まず毎年6月に「しょうぶまつり」が行われます。今年の「しょうぶまつり」では、花鳥踊りという踊りを実演しました。花鳥踊りは途絶えかけていますが、僕たち高校生が練習して復活させました。この花鳥踊りを途絶えることなく、次の世代に残していきたいと思います。

もう1つの祭りには「キャンドルナイト」というのがあり、大学生が主催で、僕たちも参加しています。「キャンドルナイト」は地域の人と大学生が連携して、地域活性化のために行われています。どんな祭りかというと、地域の人がみんなで準備し、長者の棚田に毎年の西暦と同じ数のキャンドルが並べられて、夜になるととてもきれいです。地域の食材で作られた食べ物も売られていて、たくさんの人が見に来てくれています。

次に「てっぺんトマト」を使った地域活性化についてです。取り組みとして、「てっぺんトマト」を県内で広めたい。理由は「てっぺんトマト」は一次産品なので、ほとんどが県外へ出荷されてしまうからです。県内で広めるために料理として出してもらうなどしたら、地域活性化につながるのではないかと考えています。次に「てっぺんトマト」がどんなものか紹介します。普通のトマトは糖度が5度ほどなんですけど、「てっぺんトマト」は糖度が8度～10度もあり、非常に甘いんです。なぜこのようなおいしいトマトができるのかということ、作り方に秘密があります。水分補給を極限まで抑え、トマトの生きる力、種を残そうとする力を活かすことによって本当においしいトマトを作りだしています。

私たちはお茶の商品化について考えました。どうしてお茶がおいしいのかと考えたときに、茶葉が育つ環境が最適だからです。水と土と気候といった条件が揃っています。そのおいしく元気に育った茶葉は、丁寧に手揉みされ、商品になります。そして仁淀の自然が育んだおいしい水でお茶を入れると、最高の味のお茶を飲むことができます。

次に、仁淀の人みんなが使えるインターネット整備について考えました。高知県内においても仁淀のお茶を知っている人はそんなに多くありません。また仁淀川町自体どこにあるか知らない人も多いです。そこで私たちは仁淀川町を知ってもらうために、インターネットを通じて宣伝していくことが必要だと考えました。しかし、仁淀川地域にはインターネットを使えない人も多くいます。その人たちのために着目したのがインターネットの簡素化です。

仁淀のお茶を海外へ。私たちは全世界の人たちに仁淀川のお茶を知ってもらい、飲んでもらいたいと思いました。仁淀川町のお茶も味はおいしいという自信はあります。しかし国内には静岡や京都のお茶がブランド化されて有名なので、対抗するのは難しいと思います。そこで私たちは日本国内に限定せず、世界に視野を広げてみてはどうかと思いました。

教育長：いろいろやってみようということで、「てっぺんトマト」を使った地域の活性化、あるいは仁淀のお茶を海外へとか、着目しているところは非常におもしろいですね。着目をしたけれども、じゃあ実際にどのようにしていったらいいのだろうか。多分、課題は 10

や20では収まらないと思います。ぜひ、それをみんなで考えてもらいたい。もしかしたらその中からうまくいくものが出てくるかも知れません。それから、棚田のキャンドルナイトもおもしろいですね。私は高知城の石段にしているキャンドルナイトを見ましたが、棚田でやるのもきれいだらうなと思います。ぜひ見に来てみたいなと思いました。

知事：「てっぺんとマト」の話については、県外では売れてるけど、県内には入ってこないからまず県内で広めたい。なぜ県内に入らないと思いますか。

生徒：一次産品だから、県内より県外に出荷した方がやはり売れるからではないかと思います。

知事：一次産品でも全部が県外に行ってるわけじゃないです。県内にも県外にも行くもの、両方もあると思います。県内向けにということを生産者の皆さんに聞いてみましたか。

生徒：聞いてないです。

知事：ぜひ一度生産者のご意見も聞いてみたらいいかも知れません。もしかしたら、たくさん生産できるのなら県内にも県外にも持って行くことができるかも知れませんが、少ししか生産できないのでやはり高く売れる方に売っていきたいというのはどうしても出てきます。地域活性化につなげていくという視点からいけば、どうやってその商品の良さを知ってもらって、それを正当な値段で買ってもらえるか。その商品にふさわしい値段で買ってくれる人を見つけられるか。見つけた人にずっと先々まで買ってもらえるようにするにはどうすればいいか。そういうところが重要じゃないのかなという感じがします。例えば生産量がものすごく多くて売れない、だから身近な人にもっと良さを知ってもらいたいという意味で県内に広めたいということもあると思います。仁淀川町が茶所ということについて、町の皆さんはよく知っていますが、高知市内でも知らない人は結構いるかも知れません。静岡のお茶っておいしいなと思って飲んでいたら、実は仁淀川町のお茶がたくさん入っていたとか。「ブレンドからブランドへ」と売り出してることがまだ知られていないかもしれませぬ。県外の人にも知ってもらいたいですが、高知市内、高知県内の他の地域の人にも知ってもらいたいですね。「てっぺんとマト」、それからお茶にしてもその素晴らしさというのをぜひ仁淀川町の中だけじゃなくて、地域外の人たちにどれだけ知ってもらえるかという活動、それが非常に重要だと思います。ぜひ若い皆さんとか友達同士口コミで広げていくのもあるだろうし、いずれは例えば商品化してマスコミさんにも協力してもらって売り込んでいくこともあるだろうし、頑張っていたたたきたいと思います。

インターネットの簡素化とはどういうことですか。

生徒：簡素化をすることにより、地域間のコミュニケーションを取ったり、情報を共有することで、もっと多くの人に知ってもらうことができるかなと思いました。

知事：簡素化というのは、パソコンの操作とかを簡単にするような機械を作るとかですか。

生徒：はい。

知事：徳島県の上勝町をご存知ですか。

生徒：知らないです。

知事：徳島県に上勝町というところがあります。葉っぱビジネスといって、よくお料理につまもので置ける葉っぱが高く売れるんです。徳島県の南の方の町は昔は何もないと言われていましたが、よく考えると葉っぱがあるということで、お料理のつまものに葉っぱを売っていこうと一生懸命やって大成功したとこなんです。そこは高齢者の方がほとんどですが、その皆さんは毎日の注文を受けて、売っていくということをコンピュータを使用し、管理しています。でも、それは高齢者の皆さんでもできるようにするために、例えば字を大きくしたりとか、パソコンのシステム自体をものすごく簡単にしているそうです。これ、ものすごく勉強になるケースだと思います。地域活性化というと馬路村とか、さっき言った上勝町とかをよく参考にしたりします。地域で一見何気ないもののように思っていたものが実は価値があって、しかもその価値を地元だけじゃなくて県外に発信をして、県外からお金を稼げるようにしていく。そのためのインフラ整備ということで、使う人の立場になったインターネットのやり方を考えていく点において、ものすごく勉強になるケースだと思います。皆さんがやっておられる、やろうとしていることにすごく参考になるのではないかと思います。今後勉強をされる上でぜひ参考にさせていただきたいです。やはり若い人から見ると高齢者の方がインターネットを簡単に使えるようにすればいいという視点があるんでしょうね。改めて、なるほどと思いました。

キャンドルナイト。大学生と一緒にやってるんですか。お客さんと呼んでくるにあたって、何か苦労したことはありますか。結構人が来るらしいですね。どうしたら、たくさんの方が地域のイベントに来てくれるかというのは知恵の使いどころですね。

教育長：普通のトマトの糖度が5度、「てっぺんトマト」の糖度が8度～10度と調べてくれていますが、じゃあメロンはどうなのか。他の果物や野菜と比べてみたらいいと思います。「てっぺんトマト」がどのくらい甘いかと聞かれたときに、普通のトマトより糖度で2度～5度甘いと言ってもわからないと思います。10度ということは、メロンよりも甘いかも知れませんね。

生徒：確か10度はスイカと同じぐらいの甘さだったと思います。

知事：スイカと一緒に。それはすごいですね。